

カカオと日本酒のコラボ商品で 京都とインドネシアを元気に

Dari K株式会社

代表取締役 吉野 慶一さん



吉野 慶一さん

カカオ事業を通して人々の暮らしを変えたい

平成23（2011）年3月に創業したDari K（ダリケー）株式会社。『チョコ・トリュフ』をはじめとするチョコレート商品は、数多くのメディアに取り上げられています。同社のチョコレートの特徴は、植物油を一切使わず、インドネシア・スラウェシ島産の最高品質のカカオ豆を100%使っていること。カカオを知り尽くした代表取締役吉野慶一さんと同社のショコラティエによって開発された商品は全て、工房で自家焙煎した豆を使用し、手作りで製造しています。豊かな香りとさっぱりとした後味で、男性からも高い人気を獲得。創業して11カ月後には、百貨店5店舗、ホテル2店舗との取引を実現しました。順調な歩みを進める一方で、吉野さんは事業の本当の目的を語ります。「当社の目的は、カカオを通して、インドネシアの生産者や消費者の暮らしを変えること。カカオの市場価格が低くて、大変な思いをしている現地の生産者により良い収入と働き甲斐を与え、消費者にカカオのおいしさを広めることです。つまり、チョコレートはあくまでカカオの魅力伝える手段の一つなのです」。



インドネシア・スラウェシ島産の最高品質の豆を使用。

カカオの可能性を引き出すため新商品を開発



自社店舗の工房で自家焙煎したカカオ豆。

吉野さんは元々、外資系金融機関の金融アナリストでした。カカオ豆との出会いは平成22（2010）年の春。旅行先のカフェでインドネシアが世界第2位の産地であることを知りました。興味が湧いて詳しく調査すると、カカオ豆の価格は商社の意向で決められていることなどがわかり、「投資家や商社だけが利益を得るのはおかしい」と実感。同年10月にインドネシアでカカオ生産の現場を視察した後、12月には退職し、起業しました。

農林水産物の活用

チョコレート商品の人気が高まってきた平成24（2012）年、吉野さんはカカオの魅力伝える新商品の開発に着手しました。それが、カカオを日本酒に漬け込んだ純米カカオ酒『神香（かかお）』です。「春ごろに発案して、自分でラム酒やワイン、日本酒など様々なお酒にカカオを漬けて実験してみました。その結果、カカオの成分が抽出されやすいアルコール度数、香りのつきやすさ、味やカカオの香りとの相性、見た目などを総合的に考えて、日本酒が一番いいと判断しました」。

そこから、自ら京都府下に200社ほどある蔵元に電話をかけて商談を持ちかけ、2社との提携を決定しました。「大変だったのは、日本酒の中でも、清酒や純米酒、大吟醸などカカオと一番合う種類を探す作業です」と吉野さん。8月には約50種類の試作品を用意し、協力先の蔵元それぞれの社長・杜氏と相談して、純米酒に決定しました。「協力先のお酒のプロと、お酒とカカオの両方の味が分かる私、カカオのプロでお酒は飲めない当社のショコラティエの4人で全ての試作品に点数をつけ、最も高得点のものを選びました。せっかく2社と協力するので、一方は無糖、もう一方は有糖の甘口と2つの味を作ることに決めました」。

販売のピーク時期に合わせて新商品を投入



瓶は手作りのオリジナル、木箱にもこだわっています。

パッケージにもこだわり抜き、外装となる木箱にはインドネシアの樹木を使用し、手作りで瓶を製造する東京のメーカーにカカオ形状のオリジナルの瓶の設計を依頼。11月には瓶の発注を行い、翌年1月末からの販売にこぎつけました。この販売時期には、吉野さんのある狙いがあります。「カカオ酒をつくった理由は、カカオの魅力を広めることと、京都の蔵元の活性化です。若い人の日本酒離れなどもあって、小さな蔵元は経営が厳しい状況です。そこで、カカオを通じた商品で、多くの人々に日本酒にも興味を持っていただきたいと考えました。その最も良いタイミングが、チョコレートの年間売上の約

きょうと元気な地域づくり応援ファンド支援事業 平成24年度 事例集

3割を占めるバレンタインシーズン。そこに間に合わせるために、2月という販売時期は逃せなかったんです」。その狙いも当たり、発売後は順調な売れ行きを見せている『神香』。自社の店舗・インターネットで販売しているほか、京都府内のホテルへ定期的に納入しています。百貨店でもインターネット販売が行われている中、さらなる販路の拡大に取り組んでいます。

飲み方の提案、海外とさらなる販路拡大を展開



吉野さんが商店会理事を務める三条会商店街の本店。

「この商品はカクテルにしてもおいしいので、ホテルなど様々なところでデモンストレーションや飲み方の提案も行っています。新たな販路として考えているのは海外。現在、台湾、香港、シンガポールへサンプルを出しているところです」。また、平成26（2014）年の1月には、従来の360ml・4000円の商品に加えて、「もっと気軽に飲んでいただくために」と、200ml入りで1000円台のスモールボトルを販売。事業の最終目標を見据えながら、販路拡大のプランが進められています。

「カカオ酒は、当社が儲けるためではなくて、カカオのブランド力を高めるための事業です。最終的には、カカオ農家が価格を決定できる仕組みとして、現地の生産者自身がチョコレートの原材料から製造までを一貫して作ることができる体制を作り上げたい。今年の1月には現地でチョコレート工場が稼働する予定ですし、遅くとも、2年後には目標を達成したいですね」

事業概要

Dari K株式会社

http://www.dari-k.com/

代表：代表取締役 吉野 慶一

業種：インドネシア産カカオ・カシューナッツの輸入・販売およびそれらを使用した食品の開発・販売

創業：平成23年3月

住所：〒604-8801 京都市左京区三条通神泉苑西入今新在家西町22番地和泉ハイツ1F

TEL：075-803-6456 FAX：075-803-6460